

令和7年度 学力向上のための重点プラン【中学校】

新宿区立新宿西戸山中学校

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・7年5月2日】

授業作り	重点	・ICT機器の利活用を通して、個々の生徒の学習状況に合わせた個別最適化の学びを推進する。
環境作り		・授業および教室環境のユニバーサルデザイン化を推進し、生徒が学び合い、「わかる・できる」ようになることを目指す授業作りを展開する。

■ 各教科の取組について

教科	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子などから)	目標達成のための取組
国語	・新宿区学力定着度調査の結果から、思考・判断・表現の観点から区の平均正答率と比較すると若干苦手としていることがわかる。特に読むことの面で得点できていないことが多い。	・語彙を増やすために、類義語、対義語など、関連する語句の理解、活用を促す授業を構築する。 ・相手に伝わりやすい文章構成や言葉選びに留意できるよう、意見発表の場を多く設ける。	① 通常の授業から言葉を大切に扱えるよう、意味調べを行う際も、類義語、対義語を含めて理解し、短文作成を通して活用方法を学ぶ授業展開。 ② 各単元で思考・表現ができる学習活動を積極的に取り入れ、各自が主体的に自分の考えをもち、級友と共有・深化できるよう適宜助言。
数学	・新宿区学力定着度調査の結果から、第3学年について、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」分野では区の平均正答率を下回っている。第2学年について、「数と式」「関数」の領域で区の平均正答率を下回っている。計算の定着率、変域の概念、幅の理解など用語に伴う理解度が課題である。	・学習内容の定着及び計算の手順や法則についての理解を図るため、基礎的・基本的な学習を反復する時間を毎回の授業において設定する。 ・応用問題に対する苦手意識の解消及び生徒が粘り強く問題に取り組むために、体系的な繋がりを意識した指導を行う。	① 系統性を踏まえた授業展開 ② デジタルドリル等の活用 ③ 単元別テスト等の定期的な実施 ④ 習熟度別少人数クラスを活用した生徒の実態に応じた分かりやすい指導
理科	・新宿区学力定着度調査では全体的に区の平均を下回っているが、思考・判断・表現の観点は他の観点より評価が高い。反面、思考・判断・表現の観点の中でも、化学反応式等正確な記憶が必要な分野では評価が低い。	・実験・観察を行う前に既習事項や生活体験をもとに根拠に基づいた仮説を個人で立てさせる。実験後はレポート作成を通して自ら考察する習慣をつけ、さらに話し合い活動も取り入れることで理解を深めていく。 ・既習事項の反復練習をする時間を授業内に確保するとともに、各学年の系統性を意識した授業を展開することにより、長期的に既習事項を知識として定着できるようにする。	① 結果をもとに自ら考察する授業展開 ② 系統性を踏まえた授業展開 ③ デジタルドリル等の活用

社会	・新宿区学力定着度調査では、全体的に区の平均を下回っており、特に、思考・判断・表現の観点及び応用の問題で区平均との差がある。分野ごとでは、地理分野が平均をより大きく下回っており、特に各地域の地形的特色に関しての知識を定着させていくことが課題である。	・基礎的基本的な内容の定着を図り、社会的事象の背景やつながりを理解させる。 ・地図等の資料の活用や、協働的な学びの場を増やし、多面的・多角的な思考を深めさせる。 ・考えをまとめて記述することを苦手とする生徒が多い。学習プリントやノートでのまとめ等、学習したことのつながりを考えて自分の言葉で記述する機会を増やす。	① 小テストの実施、デジタルドリルの AI 機能活用、基礎的基本的な内容の反復学習 ② 地図や資料の読み取り、調べ学習、意見の共有 ③ 学習のまとめや調べ学習等、書いて表現する学習活動
英語	・新宿区学力定着度調査の結果から、「思考・判断・表現」における書く力と読む力に課題がある。「知識・技能」においても、学年によって、基礎的な語彙・文法の問題で誤答が見られるので、反復練習を行っていく必要がある。	・英語を聞いたり話したりする活動に意欲的に取り組む生徒が多い。授業内でペアワークを多く取り入れ、生徒の発話量を増やししながら、コミュニケーションの素地を養う。 ・聞いたり話したり読んだりした内容を英語で書くなど、4 技能を統合した活動を積極的に取り入れる。 ・基本的な語彙や文法事項の反復練習を取り入れ、基礎学力の向上を目指す。	① 習熟度を考慮した少人数授業で、友達とコミュニケーションをとる授業 ② 聞いたり話したり読んだりした内容を英語で書く活動 ③ スピーチやインタビュー等パフォーマンステストによる自己表現力を伸ばす活動 ④ デジタルドリルやデジタル教科書の活用